

第4回 千代田区まちづくりプラットフォームのあり方 検討会における委員指摘対応表

1 これまでの千代田区まちづくりプラットフォームのあり方検討会の振り返りおよび 公・民・学連携まちづくり支援組織「千代田区まちづくりプラットフォーム」の概要

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○資料2に記載のある各種のまちづくり活動について事例があるとイメージがしやすい。	金子委員	■写真等を活用したイメージ図を用いて表現することを検討する。
○資料2に記載の空間の供給、活動の需要に対して具体の事例が挙がっていると分かりやすいと感じる。	出口委員長	
○資料2について、昨年に、区の地区計画の見直しのレポートが出ており、情報プラットフォームの構築の記載があったが、それとの関係性を整理してほしい。また、千代田区では地区計画を上手く活用したまちづくりを進めてきているため、このプラットフォームと地区計画との関係はしっかり整理しておくべきである。	三原委員	■専門的な内容であるため、研究会を通して整理をしていく。
○まちづくりプラットフォームという組織は法的な位置づけはどうなるかを整理する必要がある。特に条例化するのか、既存の外郭団体を活用するのが議論となる。	三原委員	
○条例化については、単にルールのためのものではなく、組織としての権限、資金を給付する根拠などの規定が必要になってくる。	内海委員	
○田頭委員から挙げた市民交流の活動、櫻井委員から挙げた学生向けの公共空間について、特定のテーマから入るまちづくりのアプローチもあると感じた。都市開発とどう結びつけるかが課題である。	出口委員長	■あり方にコラム等で具体事例を取り上げて紹介することを検討する。
○公園等の公共空間を用いて市民がイベントをやれると良いが、どこに問い合わせれば良いかわからない。キッチンカーを呼んでイベントをやりたいと考えており、有志で計画は立てているが、どこに問い合わせ・相談したら良いかが不明である。	田頭委員	■研究会や実証実験を通して、内容を整理していく。
○まちづくりの範囲は、まずは全てを対象として、相談窓口となる部署が意見を受け、福祉課や教育課が実際に対応していくというスタンスであることが重要であり、入口の部分はどうデザインしていくかがポイントになる。	内海委員	
○千代田区全体をひとつの事業として捉えて、みんなで力を合わせて、ゼロのものをプラスにしていくという発想でまちづくりを進めていくことが求められていると感じる。一方で千代田区では土地をこれ以上は開発できないので、例えば、図書館が満員であるのならば、超高層図書館タワーを建設するなどの夢のあるようなことも描いても良いのではないか。ゼロサムの議論ではなく、区民が自慢できるような夢のある、面白みのあるものを検討していければと思う。	糸井委員	■プラットフォームでカバーできない事項については、今後のまちづくりの論点として別途整理する。

2 実証実験

指摘	委員	⇒事務局の回答 ■対応方針
○神保町が、どう変化してきたかはデータ分析をあまり行っていないため、確認できると良い。	加島 委員	■実証実験を通じて、地域の現況整理を実施する。